

丸協にゅーす 3月号

- 丸協topics
『コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社様より表彰』
- 今、知っておきたい物流topics
『革命かも？大手小売りが製配販で
連携して物流危機対応』

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社様より表彰

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社様より
中四国丸協のダイナ・カンパニーが、
2022年度年間総合評価における配送業務委託のカテゴリー
で最優良評価を頂き、表彰のトロフィーが授与されました。

ダイナ・カンパニー大野社長は、今回このような評価を頂
いて、『更なるオペレーション品質向上・改善活動の推進
に努めて参ります』とのこと。

(最優良評価は、エントリー51社中3社のみ)

【お客様】

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
SCM本部
ロジスティクス統括部
西日本物流グループ統括
物流グループ統括部長
加藤 力 様

【当社】

丸協運輸株式会社
ダイナ・カンパニー
社長 大野輝夫



今、知っておきたい物流topics

革命かも?! 大手小売りが製配販で連携して物流危機対応

テレビのニュースにもとりあげられましたが2023年3月16日、記者会見が開かれ「**持続可能な食品物流構築に向けた取り組み宣言**」がなされました。主な出席者は、宣言者であるところのサミット服部社長、マルエツ本間社長、ヤオコー川野社長、ライフコーポレーション岩崎社長。同席として、日本スーパーマーケット協会（江口専務）、日本加工食品卸協会（時岡専務理事）、三菱食品（小谷室長）、味の素（堀尾上席理事）、キューピー（前田ロジスティクス本部長）、経産省中野課長、農水省武田課長。

会見に卸、メーカーも同席しているところが「革命かも?!」と題した所以です。

日本の商慣習として「**店着価格制**」があり、物流は「**買う側**」の要望に従っていながら、そのコストは商品価格に含まれて物流コストは見えにくく、そのため物流の無駄が温存されてきたという実態があります。

「**買う側**」の代表格である小売りが、物流の持続可能性のために製配販で連携して取り組むことが大々的に示されたことは、他の荷主、他の業界へも影響していくことが想定されます。

取り組みの内容はオーソドックスですが、だからこそ他の業界でも参考になるはずです。インターネットにたくさん情報があがっているので検索してみてください。

持続可能な食品物流構築に向けた取り組み宣言

1. 加工食品における定番商品の発注時間の見直し

加工食品における定番商品の店舗発注時間を前倒しすることで、お取引先様の夜間作業の削減および調整作業時間の確保を実現いたします。

2. 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

特売品・新商品の計画発注化を進め、確定した発注データをもとに商品や車両の手配ができる環境を整えることで、緊急手配等の作業負担を軽減するとともに、積載効率および実車率を向上させます。

3. 納品期限の緩和(1/2 ルールの採用)

加工食品における180日以上のお賞味期間の商品に対し、「1/2ルール」を採用することで、商品管理業務の負担を軽減し、食品物流の効率化をはかります。

4. 流通BMSによる業務効率化

卸売業と小売業間の受発注方式に、標準化された流通BMSを導入することで、高速通信による作業時間確保、伝票レス・検品レスによる業務効率化を進めます。

2023年3月16日
サミット株式会社
株式会社マルエツ
株式会社ヤオコー
株式会社ライフコーポレーション